

## swiper.js 【オプション一覧】

パラメータ	タイプ	デフォルト値	記入例	解説
speed	数値	300	600	スライドアニメーション間隔の秒数（ミリ秒）
autoplay	数値	5000	-	オートプレイの時の間隔秒数（ミリ秒）。この値がないときはオートプレイしない。
mode	文字列	'horizontal'	'vertical'	horizontallyで水平（横）スライド、verticallyで垂直（縦）スライド。
loop	真偽	FALSE	TRUE	<b>true</b> でループ。デフォルトはループしない。
loopAdditionalSlides	数値	0	2	ループの後に、いくつかのクローンを用意するかの数値。2.0の新機能
slidesPerView	数値 or 'auto'	1	4	スライドコンテナに何枚表示させたいか。（ <b>carousel mode</b> ） <b>auto</b> もサポートしていて、コンテナの幅によってフィットする。ループと共用できない。2.0の新機能
slidesPerGroup	数値	1	2	いくつかのスライドでグループ化するか。デフォルトは1。 <b>carousel mode</b> との組み合わせで便利。
calculateHeight	真偽	FALSE	TRUE	<b>true</b> にすると、コンテナの高さを計算してスライド毎に高さ設定してくれる。レスポンシブレイアウトや高さが不確定な場合には便利。2.0の新機能
updateOnImagesReady	boolean	TRUE	FALSE	すべての画像がロードされたあとで初期化（構築？）されるようにする。2.0の新機能
releaseFormElements	boolean	TRUE	FALSE	フォーム要素を許可するかしないか。2.0の新機能
watchActiveIndex	boolean	FALSE	TRUE	有効にすると、タッチ操作時にスワイプがactiveIndexを動的に再計算します。2.0の新機能
visibilityFullFit	boolean	FALSE	TRUE	<b>true</b> のとき、表示されているスライドで、表示領域を隙間なく埋める。2.0の新機能
autoResize	boolean	TRUE	FALSE	ブラウザのウィンドウサイズによって自動リサイズをするかしないか。2.0の新機能
resizeReInit	boolean	FALSE	TRUE	ウィンドウサイズが変更されるたびに再構築するかしないか。2.0の新機能
DOMAnimation	boolean	TRUE	FALSE	custom DOMでのアニメーションをさせるかさせないか。css transitionsができないIE7~9などのため。2.0の新機能
resistance	boolean or '100%'	TRUE	FALSE	falseで跳ね返り禁止。100%をセットすると無制限に跳ね返る。2.0の新機能
noSwiping	boolean	FALSE	TRUE	<b>true</b> にして、"noSwipingClass"をスライドに与えればスワイプできなくなる。2.0の新機能
preventLinks	boolean	TRUE	FALSE	スライド中にクリックがされないようにするかしないか。
initialSlide	number	2	0	先頭スライドを番号で指定する。
useCSS3Transforms	boolean	TRUE	FALSE	falseを設定すると、CSS3でアニメーションさせないようにできる。ただしposition(left:top)を使つての再現になるので、クオリティを保つためにパフォーマンスが低下する。ときどきCSS3でうまく動かないデバイスがあったりするので、そのときは <b>false</b> にしてみてもいい。

### フリーモードとスクロールコンテナ関連(Free Mode and Scroll Container)

freeMode	boolean	FALSE	TRUE	各スライドの位置を固定しないでフリーにするかしないか。
freeModeFluid	boolean	FALSE	TRUE	スライドからカーソル、タッチを離してもしばらくイージングするかしないか。
scrollContainer	boolean	FALSE	TRUE	<b>true</b> をセットすると、スクロールエリアみたいな感じで使える。
momentumRatio	number	1	2	タッチを離した後の跳ね返り値。 New in 2.0
momentumBounce	boolean	TRUE	FALSE	falseで跳ね返り禁止。2.0の新機能
momentumBounceRatio	number	1	2	跳ね返り効果の値。2.0の新機能

### スライドのオフセット（ずらしたりするやつ） 関連(Slides offset)

centeredSlides	boolean	FALSE	TRUE	アクティブなスライドが必ず真ん中にくるようにする。2.0の新機能
offsetPxBefore	number	0	100	一番最初のスライドをオフセット（引っ込めるとか）したいときに、左の境界線からの数値（ピクセル単位）を入れる。2.0の新機能
offsetPxAfter	number	0	100	右側のスライドをオフセット（引っ込めるとか）したいときに、右の境界線からの数値（ピクセル単位）を入れる。2.0の新機能
offsetSlidesBefore	number	0	2	左端から何枚目までずらしてスタートさせるか。レスポンスでスライドの幅がわからない場合に便利。2.0の新機能
offsetSlidesAfter	number	0	2	右端から何枚目までずらしてスタートさせるか。レスポンスでスライドの幅がわからない場合に便利。2.0の新機能

### タッチ、マウスの操作関連(Touch/mouse interactions)

touchRatio	number	1	0.8	しきい値。どのくらいスワイプしたら次のスライドに行くかを設定できる。数字が大きければ少しのスワイプで次に行く。スライドのサイズに応じて設定した方がいい。デフォルトでは1。
simulateTouch	boolean	TRUE	FALSE	<b>true</b> のとき、タッチと同じような動作をマウスでも受け付ける。クリックとかドラッグでスライドを動かせる。
onlyExternal	boolean	FALSE	TRUE	<b>true</b> にすると、API機能からしか操作できなくなる。タブ形式とかで使いやすい。
followFinger	boolean	TRUE	FALSE	<b>false</b> のとき、タッチを離したときにスライドが動く。ホールドしている間はアニメーションさせないようにできる。
grabCursor	boolean	FALSE	TRUE	<b>true</b> にしたとき、マウスオンしたときにカーソルが「掴む」マークになる。ちょっとした気遣いですね。
shortSwipes	boolean	TRUE	FALSE	短いスワイプをさせたくないときにfalseを設定。
moveStartThreshold	number	FALSE	100	Threshold（しきい値）をピクセル単位での調整ができる。スワイプを動き出させるのに、どれくらいのスワイプ動作を必要とさせるか、という値。"touch distance"がこの値より低いと、動かない、そうだ。

## ナビゲーション関連(Navigation)

keyboardControl	boolean	FALSE	TRUE	キーボードのカーソルキー（矢印）で操作できるようにするか、しないか。
mousewheelControl	boolean	FALSE	TRUE	マウスホイールでスライドを操作せきるようにするか、しないか。

## ページネーション(Pagination)

pagination	string or HTML Element	-	'my-pagination'	ページネーションのセレクトター名を設定できる。例えば「my-pagination」というクラスをページネーションタグに当てられる。もしくはHTML要素をいれてもいい。2.0の新機能
paginationClickable	boolean	FALSE	TRUE	ページネーションボタンをクリックでスライド操作できるようにさせるか、しないか。2.0の新機能
paginationAsRange	boolean	TRUE		<b>true</b> のとき、ページネーションボタンが表示スライドと連動するように、Classがあてがわれる。2枚以上を同時表示させるスライドで効果的。2.0の新機能
createPagination	boolean	TRUE	FALSE	<b>true</b> のとき、ページネーションを作成。たくさんのspanタグが生成され、各spanにswiper-pagination-switchというクラスがあてがわれ、カレントのスライドにはswiper-active-switchというクラスがあてがわれる。スタイルを当てるのに便利です。

## 名づけ関連(Namespace)

wrapperClass	string	'swiper-wrapper'	'my-wrapper'	スワイパーを包んでいる大外のタグのクラスを指定できる。デフォルトは'swiper-wrapper'。
slideClass	string	'swiper-slide'	'my-slide'	各スライドのクラスを指定できる。複数のスライダーを設置していて、違うスタイルを当てたいときなどには便利。デフォルトは'swiper-slide'。
slideActiveClass	string	'swiper-slide-active'	'my-active-slide'	アクティブ中スライドのクラスを指定できる。デフォルトは'swiper-slide-active'。2.0の新機能
slideVisibleClass	string	'swiper-slide-visible'	'my-visible-slide'	表示中のスライドのクラスを指定できる。デフォルトは'swiper-slide-visible'。2.0の新機能
slideElement	string	'div'	'li'	スライドのタグはデフォルトでdivを使用しているが、変更も可能。例えばliに変えている。
noSwipingClass	string	'swiper-no-swiping'	'stop-swiping'	noSwipingがtrue前提。ここで指定したクラス名を持ったスライドはスワイプの操作が効かなくなる。デフォルトでは'swiper-no-swiping'。
paginationElement	string	'span'	'div'	ページネーションのボタンのタグはデフォルトでspanを使用しているが、変更も可能。例えばdivに変えている。
paginationElementClass	string	'swiper-pagination-switch'	'my-switch'	ページネーションスイッチのクラス変更が可能。2.0の新機能
paginationActiveClass	string	'swiper-active-switch'	'my-active-switch'	ページネーションのアクティブボタンのクラス変更が可能。
paginationVisibleClass	string	'swiper-visible-switch'	'my-visible-switch'	ページネーションの表示中ボタンのクラス変更が可能。2.0の新機能

コールバック関連(Callbacks) ※動作完了時に呼び出す場合とかに

<b>queueStartCallbacks</b>	boolean	FALSE	TRUE	"true"で、"slideChangeStart"を加える。 "slideChangeStart"は、multiple swipes/transitionsをしているときに発生するコールバック。2.0の新機能
<b>queueEndCallbacks</b>	boolean	FALSE	TRUE	"true"で、"slideChangeEnd"を加える。 "slideChangeStart"は、multiple swipes/transitionsの直後に発生するコールバック。2.0の新機能
<b>onFirstInit</b>	function	-	function(swiper){ do something }	最初の初期化の直後に発生するコールバック。functionを書き込むことで実行。2.1の新機能
<b>onInit</b>	function	-	function(swiper){ do something }	すべての初期化、再初期化の直後に発生するコールバック。functionを書き込むことで実行。2.1の新機能
<b>onTouchStart</b>	function	-	function(swiper){ do something }	タッチしたら発生するコールバック。functionを書き込むことで実行。
<b>onTouchMove</b>	function	-	function(swiper){ do something }	タッチが動いたら発生するコールバック。functionを書き込むことで実行。
<b>onTouchEnd</b>	function	-	function(swiper){ do something }	タッチを離したら発生するコールバック。functionを書き込むことで実行。
<b>onSlideReset</b>	function	-	function(swiper){ do something }	タッチを離してカレントアクティブスライドがリセットされたら発生するコールバック。functionを書き込むことで実行。フリーモード(freeMode)では無効。
<b>onSlideChangeStart</b>	function	-	function(swiper){ do something }	前後へのスライドが始まったら発生するコールバック。functionを書き込むことで実行。フリーモード(freeMode)では無効。
<b>onSlideChangeEnd</b>	function	-	function(swiper){ do something }	前後へのスライドが終わったら発生するコールバック。functionを書き込むことで実行。フリーモード(freeMode)では無効。
<b>onSlideClick</b>	function	-	function(swiper){ do something }	スライド上でクリックされたら発生するコールバック。functionを書き込むことで実行。
<b>onSlideTouch</b>	function	-	function(swiper){ do something }	スライド上でタッチした直後に発生するコールバック。functionを書き込むことで実行。onTouchStartとほとんど同じだが、 <b>.clickedSlide</b> と <b>.clikedSlideIndex</b> の値を返す。 function(swiper){ alert(swiper.clikedSlideIndex); }とでもしたら動くはず。
<b>onImagesReady</b>	function	-	function(swiper){ do something }	係るすべての画像がロードされたら発生するコールバック。functionを書き込むことで実行。"updateOnImagesReady"もtrueとするべき。2.0の新機能
<b>onMomentumBounce</b>	function	-	function(swiper){ do something }	跳ね返りしたら発生するコールバック。functionを書き込むことで実行。2.0の新機能
<b>onResistanceBefore</b>	function	-	function(swiper,p){ do something }	跳ね返りしている間に発生するコールバック。functionを書き込むことで実行。 <b>p</b> から跳ね返った距離の戻り値を得られる。2.0の新機能
<b>onResistanceAfter</b>	function	-	function(swiper,p){ do something }	跳ね返りした後に発生するコールバック。functionを書き込むことで実行。 <b>p</b> から跳ね返った距離の戻り値を得られる。2.0の新機能